

Discussion Paper No. 19
Toyota Technological Institute

特集
動物倫理の可能性

Discussion Paper No. 19
Toyota Technological Institute

特集
動物倫理の可能性

豊田工業大学

目次

まえがき	1
家畜動物に対する固有の責任を巡って	
—— 3つの関係アプローチの検討	高江可奈子 3
感情 (Emotion) からアプローチする動物倫理の可能性	
—— フェミニズム、徳倫理学の限界と展開	鬼頭葉子 15
Reverence for Life: What Does It Mean?	Kozi Asano 29

まえがき

2019年10月4日（金）、山口大学で開催された日本倫理学会で、私が実施責任者となって「動物倫理の可能性」と題するワークショップを行いました。そのワークショップでは、高江可奈子さんと鬼頭葉子さんと三上正隆さんの3人に提題をしてもらいました。その3人の提題のうち、三上さんの提題は他の雑誌に掲載予定があるということで、残念ながら本誌に寄稿してもらうことができませんでした。けれども、高江さんと鬼頭さんには、ワークショップ当日の提題を書き改めた論文をここに寄稿してもらうことができました。加えて私も、ほぼ同じ時期、昨年9月21日（土）に中国広東省広州市にある中山大学で開かれた第6回日中哲学フォーラムで「Reverence for Life: What Does It Mean?」と題する発表をしていました。この発表も動物倫理に関するものなので、中国での発表に少し加筆修正した論文をここに載せました。以上3つの論文を合わせて、本号を「動物倫理の可能性」特集としました。

これまで『豊田工業大学ディスカッション・ペーパー』は、1本の論文で1つの号でした。1つの号に複数の論文を載せるのは今回が初めての試みです。このように、『豊田工業大学ディスカッション・ペーパー』、ならびに日本における動物倫理の研究がますます発展することを願っています。

浅野幸治